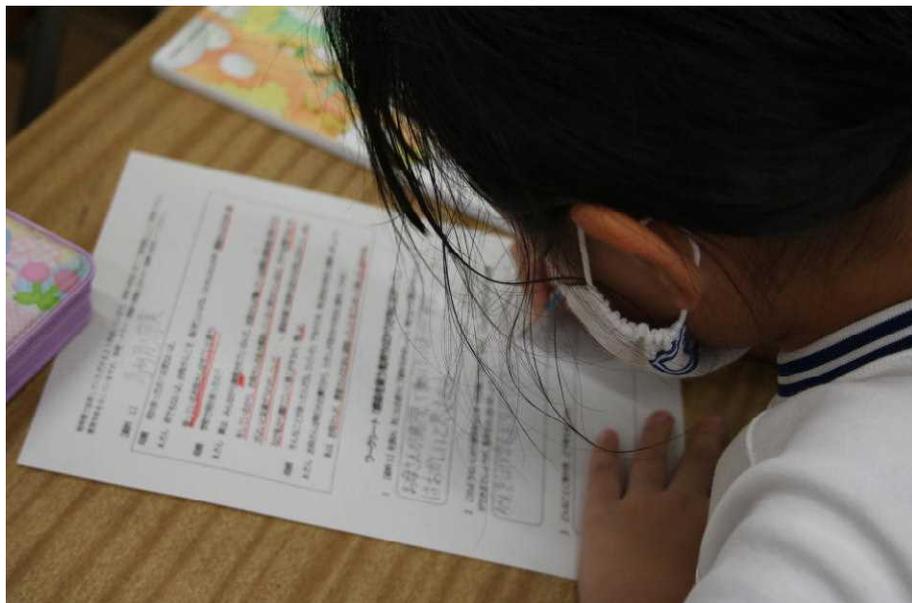


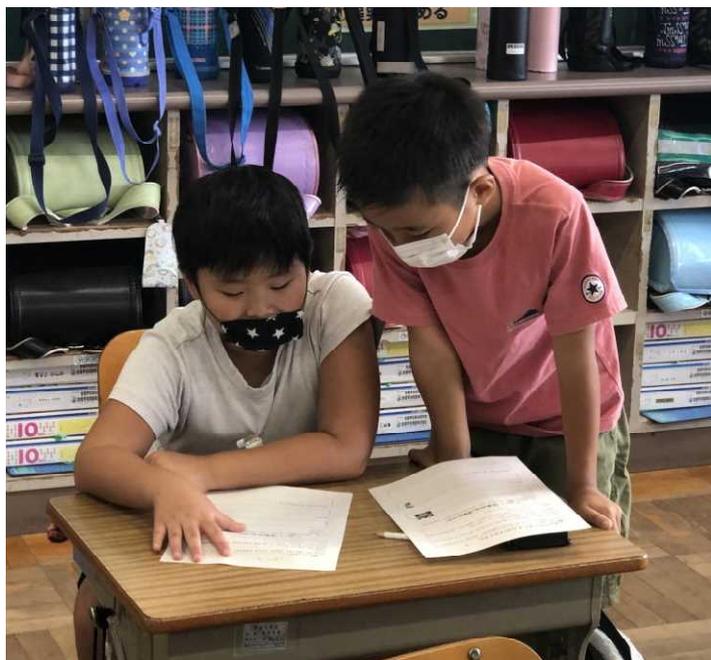
# みんなで考えました！ コロナウイルス禍での思いやり

コロナウイルス感染症になってしまった方への思いやりに欠ける言動が、テレビなどで報道されることが多くあります。中央小学校では、このようなコロナウイルス禍でも、周りの人への思いやりを発揮できる子たちであってほしいと「コロナウイルス感染症に関わる人権教育」の授業を全校で行うことにしました。



ワークシートに真剣に自分の意見を書き込む姿に、コロナウイルスのことを、自分のことのように考えていることが伝わってきました。

低学年の子どもたちにとっては、コロナウイルスのことは、難しいかなと思いましたが、ワークシートに自分の考えを一生懸命書き込む子がたくさんいました。



友だちと考えを交流させて、ワークシートを書き込む子や書き込んだ考えについて、席の近くの子と交流をする子もいました。



ワークシートで自分の考えをもてたら、近くの子と小集団を作って、意見交換をしました。

「私だったら、こう思うよ」「ぼくは、少し違うかな」とお互いの意見を交換しながら、コロナ禍でも思いやりを発揮する姿について考えました。





全体でも、コロナ禍でどんな行動をとることが、「思いやり」があるのかを考えます。  
みんなの前でも、堂々と自分の考える「思いやり」について語っていきます。



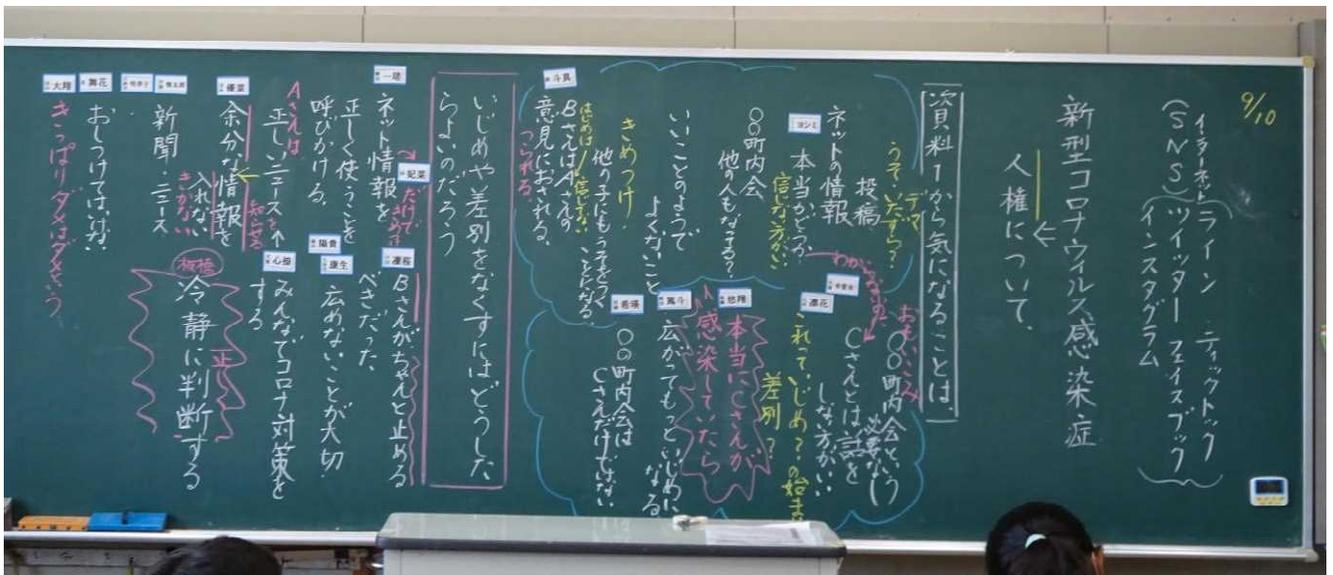
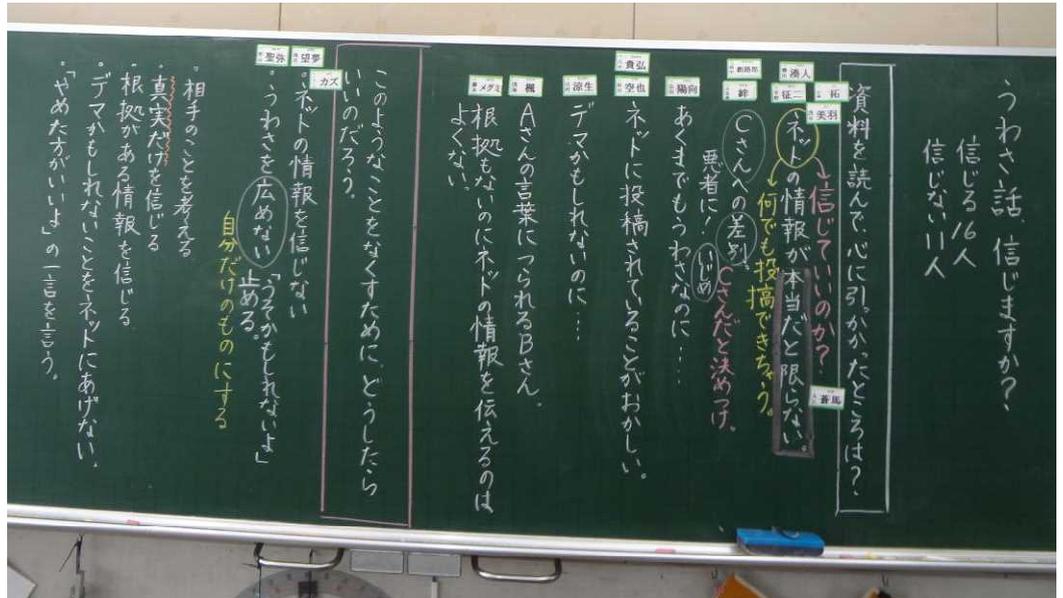
そして、中央小学校の子どもたちは、堂々と語る友だちの考えに「まごころ」をもって耳を傾けます。



動作化（簡単な劇のようにして）をして、どんな行動が思いやりがあるのか、考えるクラスもありました。



先生方も子どもたちの一生懸命考える姿に応えようと、真剣に授業を展開します。



板書（黒板の記録）からも、子どもたちが真剣にコロナ禍での思いやりについて考えたことが感じ取れます。これだけ真剣に考えられる中央小学校の子どもたちです。きっと、コロナウイルスに感染された方に対しても、思いやりをもって行動することができるだろうと思います。そして、きっとそれは、普段から、周りの人へ思いやりのある行動をとることへつながるはずで